

R. K.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

もともと英語を学ぶことには興味がありましたが留学は行けたら行きたいなと思っていたくらいでした。また、私は社会システムの CASE プログラムを取っていますが正直、ネイティブの先生がいるだけで授業全体がアクティブなわけではないと思っていました。ちょうど頃に English Camp に参加し、英文や国教の学生さんたちの英語を学ぶ一生懸命な姿、それに加え自分の英語のレベルの低さを実感しました。それがきっかけで英語の授業をたくさん取るようになり、留学に行くことも決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

最初は何から勉強していいのかわかりませんでした。とにかく現地では会話が一番大切だと思ったので、アプリを使ってネイティブの人とよくチャットみたいなことをしたり、海外のラジオや音楽、身の回りの色んな物を英語に切り替えました。

③ 現地到着後

現地に着いたらホストマザーが迎えに来てくれていてとても安心しましたし、空港から家まで車で 20 分くらいなのでたくさん話せました。オリエンテーションではたくさんの説明を同時に聞くので疲れますが、わからないことがあればスタッフに気軽に質問できる環境ではありました。私は一番初めに家の近くの銀行でデビットカードを作ることから始めました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

PIA のあるメルルハースト大学は小さいですが自然もたくさんあり、素敵な建物だっと思います。いつもきれいでしたし、カフェテリアや売店もあるのでもしランチを忘れても安心だと思っていました。図書館も大きくないですが落ち着いていてとても勉強しやすいかったです。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容は Grammar、Writing、Reading、Speaking&Listening の 4 つで最初は耳が慣れていないので先生の言っていることを理解するのが必死でした。しかし日本人だけではないという状況がとても刺激的でした。課題は毎回必ずですし、同女で受けている授業より量が多かったように感じます。しかし今となってはその課題がなかったら勉強がおろそかになっていたと思います。

◆ サービスラーニング

サービスラーニングの内容は 10～12 月は授業、1～2 月はボランティア活動という形で最初の前半はボランティア活動をするうえで学んでおかないといけないこと（履歴書の書き方、アメリカでのタブーなど日常生活に関わることを学び、最後にプレゼンテーションで終わりです。私はアートスタジオ、ラテン系の学童、ホームレスを受け入れる教会の 3 つのプレイスメントでボランティア活動をしました。どこのプレイスメントの人も私にとっても親切で、ポートランドの人の優しさを実感しました。本当にいい体験をさせてもらい、いい思い出もたくさんできたので最終日に号泣してしまいました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

PIA 主催のアクティビティは興味深いものが多かったのでたくさん参加しました。どのアクティビティもスタッフが引率してくれるのでとても安心です。一番楽しかったことはシアトル旅行とハロウィーンパーティです。そのほかに私はルームメイトと一緒にバレー、卓球など地域のコミュニティとしての練習などにも参加しました。また、ウェブサイトでもボランティア活動など探してサービスラーニングとは別のボランティア活動に何回か参加しました。

⑥ 現地での住まいについて

私のホームステイ先は一軒家のひろくてとてもきれいな家でした。今考えても何の不自由もなかったです。朝ごはん・昼ごはんは自分で家にあるものを使って作り、夜はホストマザーが必ず作ってくれるので自分で作る必要もなく、またとてもおいしい料理ばかりでした。家から学校までは徒歩とバスで 30 分くらいなので、家からダウンタウンも 30 分くらいなのでどこに行くのにも遠くなくてとてもよかったと思います。

⑦ 長期休暇の過ごし方

冬休み始まってすぐにバンクーバーに 3 泊 5 日で 1 人旅行し、数日後にシアトルにいる友達の家に行き 1 泊して帰りました。また、年末にオレゴンコーストに 1 泊 2 日で旅行に行きました。残った時間はホストファミリーやルームメイトと映画を見たりしていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

授業や日常生活も刺激的でしたが一番楽しかったことはサービスラーニングでのボランティア活動です。ホストファミリー以外のネイティブの人と長時間一緒に過ごすことはあまりなかったので普通に会話したり、それで仲良くなって遊びに行ったり、ご飯を食べに行ったりして本当に楽しくて日本に帰りたくない気持ちでいっぱいでした。また最も思い出

に残っていることはホストファミリーやルームメイトと過ごした日々です。特にルームメイトとは一緒に映画を見たり図書館にいたり、部屋で話したりそんな何気ないことです。が忘れることはありません。帰国した今でも本当の姉のようで、連絡も取り合っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

つらかったというか実感したことは日本人の消極的で周りを気にしすぎる性格です。もちろん私もこの型に当てはまる性格なので本当に最初はホストファミリーでさえもコミュニケーションを取るのが大変でした。自分の英語の自信のなさから最低限のことしか話せてなかったような気がします。慣れてくるとちょっとしたことでも話すようになり、そんな何気ない会話も楽しかったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

今、行くか行かないか迷っているのなら絶対に行くべきです。つらいことももちろんあると思いますし大変なことが待っているかもしれませんが、確実に得られるもののほうが大きいです。また、セメスタープログラムは初めての人には良い期間だと思います。1 か月だけのプログラムだと慣れてきたころに帰らないといけないし、5 か月あればたくさんのことを得られると思います。正直私は 5 か月って長いかな、ホームシックになるだろうなと思っていましたがまったくそんなことはありませんでしたし、むしろとても短く感じました。少しでも行きたいと思っているのなら今、この学生の時しかチャンスはないと思います。希望者の方たちに後悔してほしくないのでチャレンジだけでもしてみてください。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私は将来、たくさんしたいことがあって今決めきれずにいる状態です。しかし将来、英語を使う仕事をしたいという軸はずっと変わりません。私のしたいことはすべて英語に関わっています。また、アメリカにいる間にも小さいことではありますがやりたいことが見つけられました。自分のしたいことをできるだけ多く叶えられるように英語の勉強はこれからも精一杯やっていこうと思っています。



ホストマザーとルームメイトとアイスホッケー観戦に行きました！



ボランティア活動でお世話になった方たちとの最後の写真です！

N. M.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校 2 年生に行った修学旅行で自分の英語力の少なさに実感した一方で英語を話すことができたなら自分の世界が広がるなど感じ、大学生になったら絶対に留学したいと思っていました。協定留学も考えていましたがホームステイができ、サービslラーニングというプログラムがあるセメスター留学に興味を持ちました。

② 留学決定から出発までの準備期間

出発前に TOEIC の受験があったのでそれにむけて勉強していました。今思うと日常で使う単語の勉強をしておけばよかったなと思っています。ビザの申請は不安でしたが期末テストの最終日に放課後友達と一緒にやりましたが思っていたよりも難しくなかったです。ビザ申請は友達と一緒にやることをお勧めします。

③ 現地到着後

空港ではホームステイ担当のスタッフが待っていてくれてバンで PIA まで行き PIA ではホストファミリーが迎えにきてくれました。オリエンテーション 2 日目にクラス分けのテストがあったと思います。銀行や現地での携帯電話などいろいろ説明をうけるとおもいますが携帯などはよく自分で考えて契約することをお勧めします。私は PIA の携帯の料金が高いと感じたのでコンビニでも買える tracfone というプリペイドの携帯を買って使っていました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

大学はとても綺麗で素敵な校舎です。自然がたくさんでリスがいます。学校の周りも落ち着いていて勉強しやすいと思います。図書館も夜遅くまで開いています。PIA の先生方も熱心な人が多くて質問などもしやすいです。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容はレベルにもよると思いますがそこまで難しくないと思います。1 週目に同女みたいにお試し期間の授業がありレベルが低いと思ったらもう一度テストを受けることができ合格すれば上に上がることができます。私は grammar の授業が簡単すぎたのでテストを受けて無事に上のレベルの授業を受けることができました。課題はレベルが上ほど大変だと思っています。大きい試験は 2 回ありますが授業をちゃんと聞いて勉強をすればよい点数がとれると思います。

◆ サービスラーニング

私は放課後にこどもと遊ぶボランティアとオフィスワークをするボランティアをしました。こどもの英語を聞き取るのは難しかったですし自分が思っていたものと違う点もありました。がなついてくれるこどもが出来、良い経験になりました。またこのタームでは自由な時間が増え、宿題もなかったのでホストファミリーと話す話題も多く毎日が充実していました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

PIA にはさまざまな activity があり私は、seattle trip, ladies night party などに参加しました。私はサービスラーニング以外にも 2 つボランティアをしていました。1 つはホテルでのボランティア、もうひとつは日本食の food cart でボランティアをしていました。ボランティアは自分がやりたいと思えばすぐにできますので、躊躇せずに try することが大事だと思います。

⑥ 現地での住まいについて

私の家は森の中にあり近くのバス停が歩いて 2 時間かかる場所にしかなかったのも毎日送り迎えしてもらっていました。ホストの出る時間に合わせないといけなかったりしましたが私は不便だとはあまり思わなかったです。周りに電灯はなかったので夜は真っ暗でしたが天気の良い日はいつもたくさんの綺麗な星が見えてあの星は今でも忘れられないです。ホストは運命ですし現地に行くまでわかりません。いろいろ問題があった友達もいましたがなにか思うことがあったら躊躇せずに直接言い、ホームステイの担当のスタッフにも相談することが大切だと思います。何も言わなかったらホストもわかりません。行動でみてもらおうなんていう考えはだめです。とにかく話し合うことが大事です。

⑦ 長期休暇の過ごし方

冬休みはカナダのバンクーバーとシアトルに帰国前は LA に行きました。バンクーバーとシアトルは 1 人で行きましたがどの旅行もとても楽しかったです。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

あげるときりはありませんが 5 か月間すべて楽しかったです。コーヒー屋さんに行ったり夜ご飯を食べたり、ピアノを弾いて一緒に歌ったり何気ない毎日が幸せだったと思います。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

一番辛く、精神的にきつかったのは帰国直前です。日本に帰りたくなさすぎて毎日部屋の中で泣いて帰国する日も空港でも飛行機でもずっと泣いていました。また私のホストシス

ターは年が同じでしたが私の性格とは正反対だったので少し苦労した部分や彼女が何を思っているかわからないこともあり辛かったこともありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

言い出したらきりがありませんが会計をする前に kombu cha を全部飲んだマザーの姿には驚きました。PIA にはサウジアラビアの生徒が多くアラビックは左から読んで数字も私たちが使っている数字とは違うことなどいろいろな発見、驚きが多かったです。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンはもちろん持参しましたが私は現地で壊れたのでホストのパソコンを借りて使っていました。みなさんが思っているよりアメリカではなんでも手に入るのでスーツケースは極力空にして持っていくか消耗品を入れて持っていられることをお勧めします。あと帰国するときにたくさん荷物が入るボストンバックも持っていたら持って行くと便利だと思います。日本から持っていったほうがいいものはスパゲッティのかけるだけのやつなどかけるだけのやつをもって行ったら現地でも日本食楽しめますよ。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

まだ TOEIC を受験していないので点数が上がっているかどうかはわかりませんが会話の面ではスラングなど現地にいないとわからないものも多く学べましたし前よりも自信を持って英語を話せるようになりました。留学前と後では自分の考え方が変わったと思います。前は恐れて生きていた部分があったと思いますがとりあえずやってみようという考え方にになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

もし留学を考えている人がいたらぜひ挑戦してみてください。語学の上達だけではなく人の生き方、ものの見方いろんなことを学べます。どの留学を選ぶかは自分自身だとは思いますが私が留学したオレゴン州ポートランドはとてもすてきなところです。特に住んでいないとわからない事もたくさんあるので多くの学生さんがこの留学制度を通してよい経験が出来ることを願っています。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は海外で就職することが夢です。アメリカでの経験が生かせればいいなと思っています。

M. M.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は小さいころから英語に興味があり、大学中に留学をしてみたいなと思っていました。初めは短期留学を考えていたのですが、国際交流センターの方に相談に行くと、中期留学をお勧めされました。中期留学のほうがより深く学べ、またサービslラーニングなどにも惹かれたのでセメスター留学に決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してからは、目標・学習計画を立て勉強していました。特に英会話教室で会話練習に力を入れていました。ビザの申請手続きはややこしく難しかったので、友達と助け合って進めていきました。

③ 現地到着後

現地到着後は、PIA のスタッフさんが空港で出迎えてくださり、ホームステイ先まで車で送っていただきました。PIA のオリエンテーションが始まる約一週間に到着したので、時差ぼけもなおり生活にも少し慣れ、余裕をもって学校に行くことができました。

④ 語学研修機関

キャンパスは自然が多く、建物もきれいでとてもいい雰囲気でした。スタッフのみなさんは優しくいい方ばかりでした。授業中は飲食してもいい環境でした。課題の大変さはクラスによりますが、レベル 4 以上の子達は量の多さに苦労しているようでした。サービslラーニングでよかったことは自分の興味のある仕事を経験できたことと、たくさんの様々な人々に出会うことができたことです。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

PIA のアクティビティでシアトル旅行、ハロウィンパーティなどに参加しました。また、協会で知り合った友達に誘われてバレーボールのサークルに参加していました。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先ではシャワールームとお手洗いが留学生用にありました。食事は基本朝にシリアル、昼はサンドウィッチか前夜の残り物、夜はピザやパスタやハンバーガーなどを食べていました。移動は基本バスで学校まで 10 分くらいでしたが、バス停まで歩いて 20 分ほどかかりました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

クリスマスに、ルームメイトと一緒にカリフォルニア、サンフランシスコ、ロサンゼルス

へ旅行に行き、年越しは同女の友達とオレゴンコーストへ太平洋に沈む夕日を見に行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ホストファミリーと過ごした日々が一番の思い出です。幼い子供が 3 人いてとてもアクティブな家族だったので、ゴルフやテニス、アイススケート、そして森林、クルージングや博物館、動物園などたくさんいろいろなところへ連れて行っていただきました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

苦労したことは、ホストファミリーとの会話や、文化の違う国の友達関係です。ホームステイ先の子供たちは話すのがとても早く、慣れるまで全然理解できませんでした。また、自分の思っていることがうまく伝わらず、文化の違いもあり、友達関係がうまくいかなかったことが辛かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

初めのころはアメリカの文化や習慣に戸惑うことがたくさんありましたが徐々に慣れていきました。特に驚いたことは宗教に対する意識の違いです。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ノートパソコンは必須だと思います。スマートフォン、クレジットカード、電子辞書、洗顔ネット、折りたたみ傘は役に立ちました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

この留学で特にリスニング力が上がったことを実感します。TOEIC スコアもあがり、学校の授業も聞き取り易くなりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学はとても楽しいです。もちろん辛いこともあります。それを乗り越えると自分の成長や自信につながります。少しでも迷っている方はぜひチャレンジしてほしいです。不安もあると思いますが、決して後悔するようなことはないと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は、漠然ですが英語が使える仕事に就きたいです。



帰国前ホストファミリーとルームメイトと一緒に撮影しました。



クリスマスツリーは本物です。
みんなで飾り付けしました。

A. S.（社会システム学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学しようと思ったきっかけは1回生のときから留学に興味があり在学中に一度は絶対したいという思いが強かったためです。また、英語を現地で学びたいという思いもありましたがそれだけでなく、いろんなバックグラウンドを持った人と直接かかわりを持ちたい、話してみたい、知らない世界を見てみたいという思いが強かったため多民族国家であるアメリカを選び留学を決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってから留学するまでは結構忙しかったです。TOEICを受けたり航空券を手配したり研究テーマを決めたりしたほか、ビザの申請に手間がかかりました。必要な資料を集めるのとアメリカの大使館に行って面接を受けるなどをしました。夏休みだったのでサークルも忙しい中でそういったことをするのは大変でしたが振り返ればビザ申請も貴重な体験だったし勉強になったと思います。

③ 現地到着後

ポートランド空港に到着するとPIAのスタッフが迎えに来てくれました。そこからPIAに行きPIAからホストが迎えに来てくれて家までつきました。学校が始まるとなれないところは毎日の生活リズムに慣れるのが大変でした。初日はレベル分けテストと学校やダウンタウン周辺、アクティビティの説明などがありました。

④ 語学研修機関

PIAのスタッフがみんな優しい人ばかりで温かくサポートして下さいます。先生たちは親身になって相談にのって下さいます。私たちがいたタームでは日本人がとくに多かったため、授業は大人数で少人数制を望んでいた私にとってはあまりいい環境とはいえませんでした。その分友達がたくさんできました。テスト前になると課題が一気に増え、プレゼンテーションとレポートが幾つも重なることもあって夜中まで作業をすることも何度もありました。そのときは本当につらかったですが今思えばそれもいい経験になったと思います。冬のタームではサービ斯拉ーニングを受講しました。サービ斯拉ーニングのいいところはアメリカで働いている社会人の人と直接接することかできる点だと思います。学校に行っているとどうしても学校の先生やホストファミリーくらいしか学生でないアメリカの社会人の人と接する機会がありません。アメリカの社会を近く感じることができるいい機会だと思いました。サービ斯拉ーニングではプレイスメントを一人2～3個持つことがで

きます。わたしは研究テーマのこともあり小学校と移民の人のための団体に決めました。学んだことはとても大きかったし今でもとてもいい思い出です。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブなどは特にありませんでした。

⑥ 現地での住まいについて

私は 5 か月間ずっとひとつの家でホームステイで過ごしました。ホストファミリーは本当にいいひとたちで今でもメッセージをしたりしています。ファザー、マザーと小学生中学生高校生のホストシスターがいました。通学は徒歩で 10 分くらいの距離でバス停も近かったのでダウンタウンへのアクセスもよく恵まれた環境でした。

食事は朝は自分でシリアルなどを食べたりしてお弁当はホストマザーがサンドウィッチなどを作ってくれたりたまに自分で作ったりという感じでした。夜はみんなで協力して作って一緒に食べました。ハウスルールなどは特にありませんでしたが部屋はきれいに保つ、できるだけ家事の手伝いをするなどは自分で決めていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

秋冬タームだったので thanks giving とクリスマスに休みがありました。Thanks giving はカナダのバンクーバーに友達と旅行にいきました。家では近所の人やホストシスターの友達を呼んだりして 20 人くらいでホームパーティをしました。今までで一番料理をたくさんしました。あの光景は忘れられません。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で楽しかったことは数え切れないくらいあります。旅行に行ったりどこかに出かけたりしたことはもちろん楽しかったですが、私はホストファミリーと家で過ごした時間、一緒に食べる夕飯の時間が何より楽しかったです。私のホストファミリーは話すスピードがとても速く最初のうちはぜんぜん会話についていけず落ち込むことも何度もありました。しかし最後のほうにはそれにも慣れて自分も会話に入れるようになりました。自分の listening、speaking の力を上げてくれた一番の要因だと思います。またホストマザーとお互いの国のことについて話したりホストシスターとふざけあったこともとてもいい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

生活に慣れるとどうってこともないことも、生活リズムをつかめないうちは一つ一つが本当につらく感じます。特に学校が始まって最初の 2 週間は何をするにも体力的にも精神的

にも疲れしました。力の抜く時間が見つけれず苦勞したのとホームシックも重りました。しかし人にもよると思いますが私の場合は1ヶ月で環境になれたので元気になれたことがよかったと思います。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

留学している期間は自分の人生の中でも本当に尊い期間だと思います。自分のリアルな生活ではない分、今しかできないという思いでどんなことでもチャレンジしていく精神が大切だと思います。そうすると自然に英語も身につくし、出会いが生まれます。留学中に会った友達やホストファミリーは今でも連絡をとっているしわたしにとって宝物です。ぜひがんばってください。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

海外の人に日本への訪問をプロモーションするような仕事に就ければいいなと思っています。もしくは海外進出に力を入れている企業で日本と海外の橋渡し役になればと考えています。



わたしとホストファミリーです。
クリスマスにバレエを見に行っ
たときに撮りました。



わたしのサービスラーニングでのボランティア先の小学校です。最後の授業日に日本のことについてプレゼンをしてその後で撮った写真です。このクラスは4年生でみんな本当にかわいかったです。

Y. T. (社会システム学科・2 年次生)

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学を目指した理由は以前から英語にとっても興味があり、英語を話す、英語でコミュニケーションをとることの楽しさを感じていました。留学することを通して、いろんな人と出会い、たくさんのことを経験し、自分の将来につなげていきたいと思いました。留学を考えたのは大学に入ったところからです。このセメスター留学に参加しようと考え始めたのは一回生の 2 月ごろです。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まる前、参加したいと考え始めたころから英会話を習い始めました。パスポートは留学が決まるまで持っていなかったのが、一回目の事前授業の後にとったので少しギリギリでした。ビザの手続きはテスト期間とかぶっていたのでテスト前から少しずつ準備し始めて、8 月の中旬に面接に行きました。

③ 現地到着後

現地に行く飛行機は、その日は私一人だけだったので少し不安でしたが、ポートランドに着くと、PIA の人とホストファミリーが迎えに来てくれていて、向こうから声をかけてくれたので安心できました。そこからはホストファミリーの車で家まで行きました。その後、2.3 日はゆっくり家になれたりダウンタウンに出かけたりして、学校に行きました。最初の 2 日間はオリエンテーションでした。アクティビティーや授業や携帯について説明してもらいました。

④ 語学研修機関

学校内はとてもきれいで静かなキャンパスでした。授業はみんなで参加型で 1 日に 2 教科の授業を受けていました。毎日課題があり、放課後は課題をしました。サービスマーケティングは大体一人 2 つのプレイスメントに行きました。授業を受けるだけでは学ぶことのできないようなこと、アメリカの職場のこと、なによりたくさんの素敵な人との出会いがありました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

課外活動は学校に関係あるものとしてはアクティビティーに参加したり、conversational partner と会話の練習をしました。また、個人的に図書館のトークタイムに参加したり、ボランティアをしたり、教会に行ったりしました。

⑥ 現地ででの住まいについて

ホームステイ先は、学校から 1～1 時間半かかりました。朝はマザーが送ってくれていました。帰りはバスで帰っていました。ダウントウンに家が近かったので寄り道もできました。学校がある日の昼食は自分でまかなっていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は友達とでかけたり、ホストファミリーと過ごしたり、旅行に行ったりしました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中に楽しかったことは、たくさんの経験ができたことで、とくにホストファミリーはいろんなところに連れて行ってくれたり、たくさんのことを教えてくれました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学中苦勞したことは、英語が理解できなかったときです。特に、向こうはアメリカンジョークを言ってきたりすると、難しくてリアクションできなかったりしました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化の違いで驚いたことはバスです。交通手段はバスを使っていたのですが、バスが 10 分遅れることも当たり前でしたし、来ないこともあったので、驚きました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

日本から持って行って役に立ったものは、パソコンは必要だと思いました。あとは、自分がいつも使っているものがあるならあるにこしたことはないですが、たいていのものは向こうで買えるのでシャンプーなどは大きいのは持っていかなくていいと思いました。あと、必要ならマスクや、ポケットティッシュ、爪切りなどがあると便利だと思いました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前と変わったことは、意識して英語に関わるようになったことと、新しい環境に踏み込むことへの恐怖感がなくなったことです。何事にも好奇心をもって取り組むようになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

これから留学を考えている人にはぜひ行ってもらいたいです！私は行く前はいろいろ不安に思っていたこともあったし、行ってからも苦勞したこと、分からないこと、悔しかったこと、たくさんありました。でも今は全部まとめて楽しかったし、また戻りたいって思え

ます。だからぜひ挑戦してほしいです！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私の今後の進路、目標はまだ定かではありませんが海外の人と関わったりする仕事に着けたらいいなと思います。



ボランティア先での小学校の写真です。みんなとても可愛くて毎行くのがすごく楽しかったですし、小学生を通してアメリカの文化を学ぶことができました。



クラスの写真です。このクラスはスピーキング・リスニングの授業だったのでみんなで劇のようなことをしたり、発表したりとても楽しいクラスでした。

A. Y.（社会システム学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

大学に入学して1年次のころから社会システム学科の特別英語プログラムCASE上級コースを選択していたので、週に4回ネイティブの先生の授業を通じて英語の勉強をしていたこともあって、漠然と留学はしてみたいなと考えていました。2年生になり、国際交流センターの英語基礎講座を受講したのがきっかけでセメスター語学留学のことを知り、留学するなら今や！といった気持ちになったので参加することにしました。

② 留学決定から出発までの準備期間

セメスター語学留学に参加することが決まったのが6月中旬だったので、ちょうど期末テスト期間とも被って、留学に必要な書類や手続きをするための時間があまりなかったので大変でした。すべて各自でやらなければならなかったもので、友達と協力してVISAの手続きや飛行機のチケット探しをしました。勉強面では、CASEの授業と課題をしっかりこなすことに集中していました。

③ 現地到着後

ポートランド国際空港に着くと、PIAのスタッフの方が出迎えてくれました。空港まではホストファミリーが車で迎えにきてくれました。家までは20分程でした。PIAでのオリエンテーションは、書類の確認やクラス分けテスト、異文化理解について、危機管理などについての説明、また交流目的としてミニゲームをやったりしました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

PIAのスタッフや先生方は基本的にとてもフレンドリーで優しく対応してくださいました。日本人のスタッフの方もいました。

◆ 授業内容、課題、試験

クラスはGrammar、Reading、Writing、Listening&Speakingの4があり、クラスはレベル1～5に分かれていていましたが、私はすべてレベル4のクラスでした。Grammarのクラスでは、毎回たくさんの課題と何回かの小テスト、ミッドターム、そしてファイナルテストがありました。Readingの先生はとりあえずたくさん課題をだす先生でした。毎週70 wordsほどの単語の学習とテスト、課題、ミッドタームではエッセイとスピーチが課せられ、最後にはファイナルテストがありました。Writingでは3週間おきにエッセイを書く練習をしました。エッセイのお題は毎回違っていて、きちんとした形式で書く練習をしまし

た。Listening&Speaking では毎回ノートテイキングの練習、そしてミッドタームとファイナルテストとして 5～10 分のプレゼンテーションをやりました。全体的に課題や小テストも多く、エッセイも短期間でたくさん書かなければならなかったのも思っていたよりもハードでした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

特になにもしませんでした。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイをしました。日本出発前に急きょステイ先が変更になり、家族構成はホストマザーとホストシスターが 2 人暮らしをしているシングルファミリーでした。PIA があるメルルハースト大学は Oregon City にあったのですが、私がステイさせていただいた家は Portland City にありダウンタウンを通り抜けなかつたといけなかつたので、家から学校まではバスで、道がすいていると 1 時間ほど、夕方のラッシュ時では 1 時間半～2 時間かかることもありました。学校は 9 時に始まるので、朝は 6 時半に起きて 7 時半のバスに乗っていました。ホストマザーは仕事で忙しかつたので基本的にはバスでの通学でしたが、週に 2 回だけ学校までピックアップに来てくれました。家にはテレビや CD プレイヤー、電子レンジはありませんでした。食事は、スープ系や簡単なものが多くお腹が満たされなかつたり、十分に栄養をとることができなくて体調を崩したり、ということがありました。朝ごはんは各自、昼ごはんも最初は PIA の学食を利用していたり、スーパーで簡単なシリアルバーやカップヌードルを買ったりもしたので食費がわりとかかりました。夜ご飯だけでもきちんと作ってほしい、ということを伝えてからは改善され、晩御飯の残り物があればランチにもっていくようにもしました。ホストファミリーと過ごすのは夕食時の 30 分くらいだけでした。ホストマザーが仕事のときは 1 人で過ごすことが普通でした。朝が早かつたので、早起きしてランチを作ることが少し難しかつたです。家に電子レンジがないため、夕食がない日に冷凍食品をチンして食べたりもできなかつたのが辛かつたです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

冬休みは短めで、2 週間ほどでした。クリスマスはホストファミリーとその家族と過ごさせていただき、その後は 3 泊 4 日でカナダのバンクーバーに友達と行きました。バスで 8 時間の旅でアクシデント等もありましたが、海外で自分たちでバスやホテルの予約をして旅行するということはすごく新鮮で楽しかつたです。ニューイヤーイブからニューイヤーは、私のホストファミリーが誰も家にいないということだったので、友達のホストファミリーの家に 2 日間ステイさせていただき、一緒にニューイヤーを祝ったり、アメフトの試合をみてご飯を食べたりしてとても楽しい時間を過ごしました。新年から初対面の私をすごく

暖かく受け入れてくださり、本当に楽しい思い出になりました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

学校に行っているときが一番楽しかったです。授業はハードでしたが充実していて楽しく、友達にも会えて話しているときが一番楽しかったです。あとは PIA のアクティビティや冬休みに旅行したり、友達のホスト先にステイしたりしたことです。友達のホストファミリーはすごく温かく歓迎してくださって、一緒にゲームしたりいっぱいお喋りしたりしてすごく楽しい時間でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

私のホストファミリーとのコミュニケーションがなかなかうまく取れなかったことと、ステイ先での食事です。後半は日本の家からレトルト食品やインスタント食品を送ってもらい、友達が外食に付き合ってくれることも増えたため食事にすごく困ることは減っていましたが、土日に 1 人で 1 日家にいる時が一番辛かったです。その為、ひどくホームシックになってしまい、留学中の生活自体がすごく苦に思うことがしばしばありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

一般的にアメリカ人は毎日シャワーをしないため、毎日バスタオルを替えることもしないということを最初知らなくて、ホストマザーに毎日変えないでと注意されたときはびっくりしました。私はやはり毎日シャワーを浴びたかったので浴びていたのですが、そのせいか水道代が高いと注意されたときも驚きました。日本にいるときは、アメリカ人はほぼ必ず家族そろって晩ご飯を食べるというイメージをもっていたのですが、全部の家族がそうしているわけではなかったという現状を知ったときは少し残念でした。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必ず要ります。合わせて USB もあれば便利かと思います。学校にパソコンはありますが、そもそもパソコンの言語が英語で少し使い方もちがったので、使い慣れた日本語対応の自分のパソコンがよいと思います。

クレジットカードは Master Card, VISA, American Express の 3 つはほぼ必ずどこでも使えました。他には、ステイ先で洗濯物を一緒に洗濯機で洗ってもらうときに、洗濯ネットがあれば自分の衣類をまとめておくことができ、自分の衣類が混ざってしまうことがなかったのですごく便利でした。ポケットティッシュやポケットメイク落とし、常備薬、基礎

化粧品、歯ブラシなども持て行ってよかったと思いました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前と後で TOEIC のスコアは 300 点ほどあがりました。自分の中で、リスニングスキルが一番身に付いたと思っていましたが、約半年間ずっと英語にふれることで、自ずとリーディングの力もついていていたことを実感することができました。また、英語力以外にも、自分の意思をもちそれを伝えること、積極的に行動したり人に質問したりすることを怖く思わなくなってきたことも、自分の中では大きな変化です。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

英語を勉強することはもちろんですが、現地の学校で新しい友達や先生との出会いをはじめ、たくさんの初めてを経験することが出来ると思います。半年間、毎日新しい発見があり、しんどくてつらいこともたくさんありましたがすごく良い経験になったことは間違いありません。自分が思っていた留学生生活と実際の留学生生活とのギャップも多くありましたが、半年間という短い間でしたがアメリカ社会で生活したことで自分の当たり前が当たり前でないことに気付け、今までの自分の視野や考え方にもたくさん影響するものがありました。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学期間中毎日英語に触れましたが、私はやはりビジネス系の勉強がしたいと思ったので、ビジネスマネジメントコースに進みました。CASE を選択しているので引き続き英語の学習も続けますが、ビジネスコースの科目や法律系の科目をたくさん履修しています。外資系や英語が必須の職業に就くことは今は考えていませんが、必要になったときにこの留学の経験を生かすことができればよいなと考えています。



サービslラーニングを終え、PIA でのプログラム修了証をもらい、皆でプチパーティをしました。日本人がすごく多かったタームでしたが、他大学の友達もできたことは嬉しかったですし、もちろん中国、台湾の子とも友達になり未だに連絡を取り合える仲でいます。修了証をもらった時はすごく達成感がありました。



PIA のアクティビティで NBA の試合を見に行きました。ポートランドのチームであるブレイザーズと、ナゲッツというチームの試合だったのですが見事ブレイザーズの勝利で、しかもブザービートも見ることができたのですごく興奮しました。NBA の試合は絶対見たいと思っていたので念願がかなってすごく楽しかったです。

M. Y.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学を考え始めた時期は 1 回生の秋学期でした。私は高校の時に二度の留学を経験していたので、大学ではもう留学はいいかなと思っていたのですが、大学に入ってみると、自分の英語力の低さを実感すると共に、もう一度英語漬けの毎日に身を置いてみたい、ネイティブの人ともっと話をしたいという気持ちになり始めました。

大学の留学プログラムを調べていると、セメスター語学留学の Marylhurst University では、ボランティアとして実際に現地で職場体験をすることができるということを知りました。日本では体験することのできないこのプログラムに是非参加してみたい、そこで得た経験は必ず将来の自分に役立つ、と思ったのがこのセメスター語学留学に応募しようと思ったきっかけでした。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってからは、事前授業があり、そこで英語学習の目標を細かく決めたり、自分の研究テーマについてみんなの前で発表しました。そこで改めて一緒に留学に行く仲間と顔合わせをして、仲良くなりました。航空券の購入や VISA の申請は、今まで経験したことのないことだったので不安もたくさんありましたが、その時に協力しあえる仲間がいたことはとても大きかったです。特に VISA の申請は、度々英語で書かれている質問に回答しなければいけなかったもので、複数人で相談をしながら進めていきました。今思えば、専門機関に頼まず自分たちだけで無事やり遂げることができたのは良い経験になったと思います。出発まで、英語の勉強にはあまり時間を取れませんでした。今までのホストファミリーと連絡を取り合い、できる限り英語を使うことを意識して生活しました。

③ 現地到着後

サンフランシスコからポートランド行きの飛行機に問題があり、2 時間ほど遅れてポートランドに着いたのですが、空港には語学学校のスタッフの方 2 名が迎えに来てくれていました。ほとんどの人は語学学校でホストファミリーと対面でした。学校が始まるまでは、ホストファミリーと教会に行ったり、一緒に行った友達とポートランドの町を散策したりと充実した日々を送りました。私の場合、時差ボケがなかなか治らなかったもので、完全に良くなるまでには 1 週間程かかりました。オリエンテーションではスタッフの方々がゲームを取り入れながら、私たちの緊張を解そうとしてくれているのが伝わってきました。たくさんさんの説明を聞かなければいけなかったのが大変でしたが、常にスタッフの方が親切に対

応してくれたので良かったです。その後プレテストを受けて今後の授業のレベル分けが発表されました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

私は、Marylhurst University の付属の PIA という語学学校に通っていました。キャンパス自体はとても綺麗で落ち着いていました。図書館にもパソコンや勉強机が沢山あったので、宿題や自習をするのに最適でしたし、更にキャンパス内に郵便局があったので、日本に手紙を送る時も便利でした。スタッフの方もとてもフレンドリーで、常に私たちに問題がないかどうかを確認してくれていました。何か問題が起きた時はすぐに対応してくれました。

しかし、私たちが行った秋タームは、たまたま日本人が多く、生徒の約 8 割が日本人という状況でした。それ以外は台湾人、中国人、韓国人、サウジアラビア人で構成されていましたが、彼らも母国語をよく喋っていたので、学校の中は英語だけが飛び交う環境ではなかったです。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は、週に 4 日、月曜日～木曜日までで、金曜日は休みというスケジュールでした。毎日 9 時～11 時半までの 1 コマと、12 時半～3 時までの 1 コマの 2 コマずつありました。月・水は Grammar と Reading、火・木は Writing と Speaking&Listening といった時間割でした。授業内容としては、Grammar は中学の時にすでに習った内容から、まだ習ったことのないような内容までありました。最初から最後まで、日本で教わってきた文法よりも詳しく習うことができたのでとてもためになりました。Reading は、教科書の内容に沿いつつ、先生独自のやり方で更に話の理解を深めていきました。Writing は、一番苦勞した授業でした。とにかく先生の進めていくスピードが早く、あまり理解できぬままどんどんエッセイを書かなければいけなかったのが、課題の量も多く最後の最後まで苦しみました。Speaking&Listening は、教科書の内容と、プレゼンテーションをしました。プレゼンテーションのテーマは自由だったので、日本の七夕についてと、お正月について発表しました。どの授業も不定期でクイズと呼ばれる小テストがありました。また、試験は 1 ターム中に Midterm Exam と、Final Exam の 2 つがありました。どの授業の先生も基本的に質問に行けば丁寧に疑問に答えてくれました。また、チュータリングセンターに予約すれば、放課後図書館で別の先生が 1 対 1 で勉強を見てくれました。私は授業のペースや課題の要領を得るまでに 2 か月ほどかかりました。なので、前半は毎日課題に追われていましたが、努力すれば必ず結果として現れてくれていたのでとてもやりがいがあったなあと思います。

◆ サービスラーニング

毎週火曜日の放課後にサービスラーニングの授業がありました。前半はアメリカの社会について学んだり、課題で履歴書を作ったりしました。後半から、1人2つずつ、希望の職場をリストの中から選び、実際に職場にメールを送ったり面接をしたりしました。課題や、プレゼンテーションの準備等しなければいけないことが多かったので大変でした。

年明けから職場で働き始めたのですが、私はある町の市役所の様な所と、アメリカ人の大学生が留学に行くのをサポートする団体にお世話になりました。どちらも通勤が大変でしたが、実際のアメリカの職場の雰囲気や、現地の学生、大人の人と深く関わることでできる機会を得ることができたので、本当に良かったです。また、この2つの職場から、将来自分のしたいことのヒントを得ることができました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

最初、学校のみならず仲良くなるためによくPIAのアクティビティに参加していました。スタッフの方が運転をして連れて行ってくれるので、お金はかかりますが自分たちで行くよりも楽に行くことができました。ハロウィン等の季節ごとのイベントがとても楽しかったです。

⑥ 現地での住まいについて

私のホストファミリーは森の中に住んでいたため、バス停まで歩いていくことができず、朝は友達のホストマザーが車で迎えに来てくれていました。バス停から学校は15分程でした。帰りも、誰かに迎えに来てもらわなければいけなかったため、現地での携帯電話が必須でした。家はとても大きかったです。

私のホストファミリーは、もう何十年も留学生を受け入れているので、留学生への対応に慣れていました。なので、ホストマザーは働いていてとても忙しくしていましたが、その様な中でも私のことを気にかけてくれて、毎日私が一日の出来事を話しやすい様に質問をしてくれました。ホストファザーはとても静かな人で、向こうからは何も話しかけてくれなかったため、最初は嫌われているのかなあと心配しましたが、時間が経つにつれて、こちらから質問をすれば沢山話をしてくれることが分かったため、疑問を見つけてはホストファザーに質問をするようにしていました。ホストシスターが2人いたのですが、1人は大学に行くために家を出ていて、もう1人はすでに大学を卒業していたため、アルバイトをしたり彼氏と遊びに行ったりしてほとんど家にはいませんでした。ですが、時間の合う時は一緒に話をしました。ご飯は、朝と昼は自分で用意しなければいけなかったため、冷蔵庫の中の物やフルーツを学校に持って行きました。また、犬を5匹、猫を1匹飼っていました。私が滞在している間に犬が3度も妊娠したため、沢山の可愛い子犬を見ることが

できました。週末、ホストマザーは仕事や用事でほとんど居なかったもので、生活に慣れてからは、できるだけ家に 1 人にならないように友達と遊びに行くようにしていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

冬休みに友達とバスに乗ってカナダのバンクーバーに行きました。国境を越えるので、少し緊張しましたが無事に超えることができました。旅行中はもちろんハプニングも多かったですが、バスの予約やホテルの予約はインターネットを使って、思ったよりも簡単にできました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

今思い返してみれば、留学中は毎日が楽しかったです。何気ない毎日にもやはり充実感があつたと思います。最も思い出に残っていることは、帰国へのカウントダウンを始めた頃、後悔のない様に、友達とお互いの行きたいところをリストにあげて、一緒にスケジュールを組み、バスを乗り継いで 1 つ 1 つ制覇していったことです。私たちは食べるのが好きだったので、美味しそうなお店を調べては行っていました。最後の最後に海を見たいという話になり週末を利用してバスを予約し、日帰りで見に行ったこともすごく思い出に残っています。また、私が帰国する 3 週間前にやってきた韓国人のルームメイトと、夜中までお互いの文化の話をしたり、一緒に韓国の料理を作ったことも楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中最も苦労したことは、やはり出かける際の不便さです。先ほども述べたように、1 人でバス停まで行くことができなかったのも、職場に行く時も、友達と遊びに行く時も、家を出る時間をホストマザーに合わせなければいけませんでした。ホストマザーは本当に多忙だったので朝早く出なければいけない時もありました。集合時間の何時間も早く家を出て、バスに乗り、集合場所の近くで 1 人何時間も時間を潰さなければいけなかったり、迎えも頼まなければいけなかったのも、気を使って早めに帰ったり、寒い中バス停で迎えがくるのを待たなければいけませんでした。周りの子が当たり前のように、好きな時に家を出て好きな時に家に帰ることができなかったのも、それが一番辛かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

一番驚いたことは、アメリカの親が娘の彼氏についてとても肯定的（無関心？）だということです。ホストシスター 2 人の彼氏が頻繁に家に来ていたのですが、そのことについてホストマザーもホストファザーも気にも止めていませんでした。特に大学に通っているホストシスターの彼氏は長期休暇の度に何日も家に泊まっていたのですが、平然と一緒に過ご

していました。日本では、こういったことについては普通厳しいと思うし、彼氏を家に何日も泊まらせるなんて考えられないので、さすがアメリカだなあと感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは絶対に持って行った方がいいと思います。授業の課題で、パソコンを使ってエッセイを書いたり、プレゼンテーションを作成しなければいけないからです。アメリカのほとんどの家では、Wi-Fi を使うことができるので、スマートフォンも必需品です。学校にも Wi-Fi はありますし、レストランでもたまに使うことができます。後は、クレジットカード、日本の風邪薬、折りたたみ傘、爪切りは持って行って役に立ちました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力の向上で一番感じたのは、Grammar 力だと思います。PIA での Grammar の授業を受けるまではあまり Grammar を重視していませんでしたが、授業を受けてから今まで間違った使い方をしていたことに改めて気づくことができ、さらに表現力の幅が広がったように感じます。また、授業の課題として一番使うことの多かった Writing 力。留学に行く前から、Writing は好きでしたが、留学にいったことで、もっと好きになったように感じます。授業の最後には、先生にもよく書けていると褒めて頂けたので少しは力を付けられたかなと感じます。一番苦手だった Reading は、授業以外にも時間のある時はすすんで本を読むようにしていたので、ある程度の文章であれば分からない単語があったとしても、前後の脈絡から想像して大体の意味を理解できるようになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

どんな時でも何事も前向きに取り組んでください！留学中だけではないですが、日頃の生活の中でやはり気分の浮き沈みは誰にでもあることだと思います。特に留学中は慣れない生活や、ストレス、初めてのことでだけでももちろん上手くいかないことも沢山あると思います。私も、留学中は楽しいことばかりではなく、辛いこともあり、いつもポジティブに何事にも取り組んでいたわけではありませんでした。部屋に塞ぎ込んでしまったり、時には人との接触をできるだけ避けていた時期もありました。今思えば、もっと日 1 日、時間を大切にするべきだったなあと感じます。「留学」という期間は限られています。最初は長いと思っていた半年も、気づけばあと 1 か月、2 週間、1 日というように自分の気持ちや取り組みと関係なく時間は進んでいきます。辛いことがあったときに、日本の友達が「あと半年もある、と考えるのではなく、あと半年しかないという考え方をしてみたら？」と言ってくれました。アドバイス通りに考え方を変えてみると、あと半年しかないのだからこ

れもしよう、あれもしてみよう！とどんな時でも前向きに沢山のことに取り組むことができました。分かりきったことだとは思いますが、実際に自分がその場にいると忘れがちになってしまうことだと思います。なので、ぜひ留学前も留学中も留学後も時間は限られている、毎日を大切にしようという気持ちを忘れずに留学生活を楽しんでください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学に行く前も行った後も、英語を使うことのできる仕事に就きたいという気持ち、留学に行く生徒のお手伝いをしたいという気持ちは変わっていません。強くなったように感じます。しかし、サービ斯拉ーニングの経験を経て、自分に向いているもの、向いてないものが分かったので今後は英語力を維持していきながら具体的な職業を探していければいいなと思っています。



最後の授業のあと Speaking&Listening クラスのみんなで撮りました！



韓国のルームメイトと、その友達と、私の友達とで韓国料理屋さんにて！
とても美味しかったです♪

H. T. (人間生活学科・2年次生)

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学を目指した理由は、大学生活の中で何か一つ自分の意志と力でやり遂げたいという気持ちがあり、将来様々な面で活かすことができる、自分が昔から好きだった英語をもっと深く学ぼうと思ったのと、日本に住んでいては気づけないようなことを客観的にみることによって自分のことも見つめなおしたいと思ったからです。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学決定からの準備期間は、ビザの取り方など何もわからなく不安だったので友達と相談しあったり、洋画を見て耳を英語に慣らしたりしていました。

③ 現地到着後

現地には友達と同じ飛行機で行き、空港まで PIA のスタッフが迎えに来てくれてホームステイ先まで車で送ってくれました。PIA のスタッフは外国人留学生に慣れているのでつたない英語でもほとんど理解してくれ、とてもゆっくりわかりやすく話してくれました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

私が在籍していた機関の PIA は日本人の留学生がとても多く 8 割ほどを占めていましたがタームによって全然違うそうです。日本の大学でほとんど宿題がなく、アルバイトに追われる生活をしていたので最初は課題の多さに戸惑いましたが集中すれば 1 日 2~3 時間程度で終わるので夜更かしをすることもなく規則正しい生活を送ることができました。ホームステイでおばあさんと二人で暮らしていたので毎日一緒にテレビや映画を見て団らんしていました。家は学校からバスで乗り換え含め 30~40 分程度ですが車だと 15 分ほどなのでほぼ毎日送り迎えしてもらっていました。お弁当を毎日作ってくれたので食費にお金を使うことはほぼありませんでした。

◆ サービスラーニング

Winter term はサービスラーニングを受講していました。ボランティアは 2 つの機関で行っていました。図書館のリテールショップではレジなどの店番や品物の整理などアルバイト感覚の仕事ができ、毎日違うお客さんと話せて楽しかったです。高校生に料理を教える教室ではアシスタントの仕事をしながら高校生たちと楽しくアメリカの家庭料理の作り方を学ぶことができました。接客の経験と同年代の学生とのふれあいの両方を経験できたのでとても貴重な時間でした。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

半年間ポートランドに住んでいたこと自体がすごく楽しかったと後から考えるとすごく思います。のんびりとした時間の中で自分の好きなことの勉強に集中でき、毎日のように知らない人や文化との出会いがあり、学校で授業を受けていた時もサービ斯拉ーニングでボランティアをしていた時も毎日、「今日も楽しかったなあ」と思って過ごしていました。帰国前に友達とニューヨークへ旅行に行ったのもすごく楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

私が一番しんどかったのはリーディングの課題です。最初のころは教科書の内容が全く理解できずに置いて行かれることにとっても焦りを感じました。週末は単語の課題が出て、単語の課題だけで5時間近く費やすこともありました。でも後から考えるとその課題のおかげでボキャブラリーも増え集中力も付いたのでやってよかったと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

とにかくバスが時間通りに来ないことに戸惑いました。私のホームステイ先はどこに行くにもバスを乗り換えないといけなかったので1本目のバスが遅れて次のバスを1時間待たなければいけないことも多々ありました。バスで行動するときは時間に余裕をもっていったほうがいいと思います。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

家で宿題ができるし、DVDが安く売っているのでリスニングの勉強がてら見ることもできるのでパソコンは持って行ったほうがいいと思います。家によるとありますが私の家では洗濯は週に1回という決まりだったので下着などは多めに持って行って正解でした。学校内での移動のみで、傘をさすほどでもない雨が結構多いので服はできるだけフードの付いたものの方がいいと思います。大体のものは現地でも入手できますが小さい出費もかさむと結構つらいので持っていけるものは持って行ったほうがいいと思います。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

私は留学前と帰国後でTOEICのスコアを300点近く伸ばすことができました。ボキャブラリーが増えた、リスニング力がついたこと以上に英語に対する集中力がついたことが大きいと思います。RとLの発音の違いなど分からなかったことは分かるまで先生に質問したりして理解できるようになりました。また、語学の面以外でも社交性がついたと思うし初対面の人とも話す機会がとて多かったおかげで人見知りが治りました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に行く前は期待と不安が涼風あると思うし、実際留学してからも最初は文化や習慣の違いになじめなかったりいろいろなことに対して焦りを感じたりすることもあると思うけれど、後から考えるとそれも含めて絶対にいい思い出になると思うし、だれにでもあるチャンスではないので迷っているならぜひ留学を経験してほしいと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今の目標は、就活が始まる来年までに TOEIC のスコアをあと 50～100 点伸ばすことなのでそれに向けた勉強を現在しています。半年間の留学を通してもっと英語を話せるようになりたい、使いたいという思いが増したので将来は少しでもいいから英語を使う機会がある仕事をしたいと思っています。具体的な業種や職種はまだ決めていませんが自分の英語力や留学経験をしっかりと生かしていきたいなと思います。そのためにもしっかり英語と関わり続けて、勉強し続けて就職活動の時にも自分の強みは英語であるとしっかり胸を張って言えるようにしたいです。



ホストマザーと撮った写真です。ホストマザーはピアノの先生をしていたので毎日忙しかったのですが毎日 3 食必ず用意してくれたり学校へ送り迎えしてくれたりとても優しかったです。

Y. N.（英語英文学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私がこの留学を考え始めたのは、大学に入学してからでした。私は、大学に入学する前からシェイクスピアプロダクションに関わることを決めていました。なので、留学をすることできっとシェイクスピアプロダクションに携わるプラスの力になると思ったことがきっかけです。英語力の向上はもちろんですが、自分の知らない環境でいろんな人と出会い、たくさん経験したいと思いました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してからは、英単語を増やすこととリスニングに力を入れました。単語は電車の中や寝る前などの空いた時間を見つけて取り組むようにしていました。一日 20 個ぐらいのペースで進めていました。リスニングはもともと一番苦手だったので、学校でネイティブの先生を見つけて話しかけたり、授業でも積極的に発表や質問をするなどしていました。後は、リスニング教材の ALC をしたりしていました。海外に行くことはこれが初めてだったので飛行機のチケットの手配やビザ申請の手続きは余裕をもって早めにしていました。

③ 現地到着後

現地の空港には PIA スタッフの方が迎えに来てくれていました。学校まで車で送ってもらい、そこで初めてホストファミリーと会いました。その日は夕方だったので、着いてから晩ご飯を家で食べました。私はほとんど時差ボケがなかったので、次の日からルームメイトとルームメイトの友人とスパゲッティとチーズケーキを食べに出かけました。家での役割やバスの乗り方など必要なことをルームメイトから教わりました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

キャンパスはきれいでした。しかし、ある冬の日には教室の暖房が壊れたということがありました。凍えるほど寒いというわけではなかったので大丈夫でしたが少し困りました。先生方も熱心で楽しい方ばかりだったので授業が楽しみでした。放課後にも 1 対 1 で宿題や質問対応をしてくださり本当に充実していました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業はリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの 4 つの授業で週に 4 日でした。主に先生がパワーポイントを使いながら教科書を進めていくような感じでした。ペアワークやグループワークが多く、クラスメイトと仲良くなるきっかけでしたし、和気

あいあいとしていて楽しかったです。課題の量が多いか少ないかでいうと多かったです。授業が週 4 日なので、週 2 のペースで授業が回ってくるのでその日のうちに宿題は必ず終わらせていました。教科書や小テストに向けた勉強やプレゼンの準備などいろんな課題が出されました。試験は 1 タームに midterm と final と 2 つありました。どちらも授業に沿った内容なので、授業を真面目に受けて宿題をしっかりとしていれば問題ないと思います。

◆ サービスラーニング

1 人 2 つの仕事をリストから選びました。履歴書から面接までの授業が約 1 か月あり全員の仕事先が決まってから、自分の行く仕事先の紹介をプレゼンテーションしました。私は、Campfire という小学校の放課後教室と Farm に行きました。Campfire は子どもたちとお菓子を食べたり、クッキングや理科やお絵かきの授業をしたりしました。初めの 2 週間はどう話しかけたら良いのか分からず、子どもたちもなかなか話しかけてくれなかったので少し困惑していました。しかしその後からは、子どもたちも私の顔と名前を覚えてくれて楽しく過ごすことができました。別れの日も寂しがってくれて本当に嬉しかったです。Farm はボスの男の方と 2 人でした。彼の子どもたちともほぼ毎日顔を合わせ一緒に作業をしました。木を植えたり、野菜を収穫したり、ヤギやロバや羊の世話をしたりとアクティブに過ごしました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

PIA では授業後や週末にアクティビティがあり、ハロウィーンパーティやアウトレットに連れて行ってもらったり、土日を使ってシアトルに旅行に行ったりもしました。他にもたくさんアクティビティがあり、名簿に名前を書いて有料のアクティビティならお金を支払います。私は、地元の高校の日本語クラスにもボランティアとして少しの間だけ参加させていただいていました。生徒たちは日本に興味があって受講しているので、教室と一緒にいて楽しかったです。かるたをしたり、フルーツバスケットのようなみんなでするゲームを日本版でしたり、日本の歌を披露してくれたりもしました。

⑥ 現地での住まいについて

とても大きなお家で広い一人部屋を使うことができました。ホストマザーと PIA に通う年上の韓国からのルームメイトと住んでいました。晩ご飯のサラダを作ることはマザーの役割ではなく私たち学生の分担になっていました。まったく苦ではなくお手伝いのような感覚でしていました。その他の料理はマザーが作ってくれて、栄養バランスの摂れたヘルシーなご飯でした。家のことは全てルームメイトが教えてくれて彼女は本当に私にとって姉のような存在でした。家でも毎日お互いの部屋でおしゃべりをして、予定のあった日は出かけたりしました。バス停から家までは徒歩で 10 分弱ぐらいだったので便利でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

カリフォルニアのディズニーランドに友だちと行きました。アトラクションの数が日本と比べて多く感じました。サンクスギビングの時に行ったのですが、待ち時間は日本より短くすいすいと乗れた印象です。冬休みはマザーの子どもや親戚や私の友だちが集まりクリスマスパーティーをしました。おいしいご飯がたくさんあってにぎやかで楽しいひと時でした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ポートランドでの何気ない毎日が本当に楽しかったです。授業やアクティビティ、家に帰ってから家族と過ごす時間や友だちとの休日です。おいしいレストランを友だちと探して行ったり、景色のきれいな所を散歩したり、映画を観に行ったりと日本にいた時は特に何も思わずしていたことが新鮮に感じました。サービスラーニングで Farm に行ったことが一番思い出に残っています。このボランティアの日は本当に濃くて帰ってきたらへとへとになっていました。しかし、自然が好きで動物が好きな私にとっては本当に充実していました。ボスであるノアは、私のリスニングとスピーキングの力を上げようと「なんでもいいから話を聞かせて。」と話題をふってくれて、私のことを思っていてくれるのだなと感じました。彼のおかげでこれらの力が向上したのはもちろんです。いつも優しく気にかけてくれて、本当のお父さんのような存在でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

入学したての時にサウジアラビア人の英語のクセが強くてなかなか聴き取れませんでした。休日遊びに行った際に、待ち合わせの時間に時間少し遅れてきた台湾人の友だちがいました。全員がそうというわけではないのですが、日本人はだいたい時間をしっかり守るイメージなのであまりこうゆうのを経験したことがなかったです。サービスラーニングの時に、指示された内容が1回では理解できなかったことがつらくて悔しかったです。もう1回言ってもらえるようお願いしたり、違う言い方で話してもらするなどしてもらった時もありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

宗教の信仰心に驚きました。サウジアラビア人は毎日決まった時間にお祈りをして、女性は頭に布を巻いて過ごしていました。私のホストマザーはキリスト教を信仰していたので、毎日晚ご飯を食べる前に全員座ってお祈りをしました。マザーは毎週日曜日に教会に行っ

ていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ノートパソコンは持っていくべきです。レポートを書く機会も多いのであったら必ず役に立ちます。スマートフォンも Wi-Fi の繋がる所でしたら使えるので必須です。後は、ホストファミリーへのお土産、クレジットカード、日本の薬、電子辞書、折り畳み傘、洗濯ネット、使い慣れた化粧水は持って行って良かったです。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング、スピーキング力は行く前と比べてはるかにつきました。行く前はいきなりネイティブの方に話しかけられると、慌ててしまいきちんと対応できなかったのですが今はそんなこともなくなりました。ネイティブの先生の授業で少し早口の先生の授業を今、受講しているのですが、苦勞しながらも聴き取れています。リーディングも前に比べると読むスピードが上がった気がします。TOEIC も行く前と比べて 140 点ほど上がりました。性格的にも、度胸がついて以前よりも意見をはっきり言えるようになった気がします。英語力も内面の部分でも成長できました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に少しでも興味があるならぜひ挑戦してほしいです。私は、海外ドラマが大好きで海外に将来住みたい、と思っているほど海外が大好きな人ではありませんでした。しかし、自分の英語力の向上や自分のステップアップのためにこの留学に挑戦しようと思いました。出発の日がだんだんと近づいてくると寂しくなりましたし、本当に約 5 か月知らない土地でやっていけるか不安になりました。しかし、いざ到着して過ごしていると多くの人と出会い、素晴らしい体験をしました。ポートランドでの生活は私にとって一生の宝物になりました。離れて暮らしてみたらこそ、日本を外から見ることができましたし、改めて周りへの感謝の気持ちを持つことができました。留学は、語学の向上だけではなく人として成長できる機会です。今のこの時だからこそチャレンジできるものだと思います。限られた時間を大切に充実したものにさせてください！

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

これからは、シェイクスピアプロダクションに力を注いでいきます。将来は外国人の方をもてなせるホテルマンになりたいです。



Grammer の最後の授業。みんな仲が良くて楽しかったです。先生はよく個性的でかわいらしいケーキやドーナツを作って持ってきてくれました。



よく日曜日に連れてくれていたカフェの外でホストファミリーと。このカフェはマザーのお気に入りのお店で、アーモンドパンがおいしかったです。

R. T.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は小学生のころから英語を勉強していて、将来は英語を使った仕事に就きたいと思っていました。そのために英会話を習ったり英検を受けたりしていましたが、大学に入るまでは留学する機会がありませんでした。だから、大学に入って留学を経験し自分の英語力がどのくらい通用するか、また、より向上させたいと思っていました。アメリカのセメスター留学は、サービスマーケティングプログラムがあり、現地でボランティアをすることによって文化や慣習を学べると思い、また半年間留学ができる上に、大学の在学のまま単位修得もできるのがこの留学の魅力の 1 つだと思いました。

② 留学決定から出発までの準備期間

私たちは自分たちで航空券やビザなどを取らないといけませんでした。準備で最も大変だったのは、ビザの申請でした。申請をするまでに必要な書類もありました。英語で入力しないといけない上に時間制限もあるようで、何度もやり直しをしました。専門機関にやってもらうこともできましたが、友達と連絡を取りながら手続きをしました。勉強面では、英会話に通っているので、クラスの時以外でもネイティブの先生と話し、会話に慣れておくようにしました。また、文法の確認と単語や会話表現の知識を増やすようにしていました。

③ 現地到着後

空港には PIA スタッフが迎えに来てくれました。学校の初日にはオリエンテーションとクラス分けのためのプレイスメントテストがありました。私は現地に着いてから 1 週間ほどは環境に慣れないせいか体調が悪い日が続きました。しかし、ホストファミリーのあたたかさのおかげで、だんだん環境に慣れていきました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

語学学校である PIA に通っていました。PIA はアットホームな雰囲気先生やスタッフも優しくフレンドリーでした。クラスはレベル別に分かれているので、クラスメイトもそれぞれ違うメンバーだったので友達もたくさんできるし、クラスによっては人数も少ないクラスもあったので、自分にあったレベルで勉強できるし良い環境でした。放課後に勉強した時は図書館を利用しました。図書館にはパソコンもあるので課題をしたり机や椅子もあるのでチュータリングやテスト前は利用していました。

◆ 授業内容、課題、試験

私たちは Grammar, Reading, Writing, Listening/Speaking のクラスを受けました。月曜日と水曜日は Grammar, Reading で火曜日と木曜日は Writing, Listening/Speaking でした。一つの授業時間は長いですが、途中で休憩がありました。試験は Midterm Test, Final Test と 2 つありました。クラスはレベルによって違うので、授業内容や試験や宿題の多さも異なっています。私のクラスは Reading が特に宿題が多くて大変でしたが、全部自分のためになるので頑張りました。授業では、ペアワークがあったり、グループで話し合っ問題て問題を解いたり、スピーチがあったり、さまざまでした。

◆ サービスラーニング

サービスラーニングは現地ボランティア活動ができるプログラムです。私は 2 か所でボランティアをしました。私は収入の少ない老人に昼食を供給する施設(Meals on Wheels)と子供たちの放課後プログラムを主にする施設(Boys & Girls Club)の 2 か所でボランティアしました。どちらも日本人は私だけで、生の英会話に触れる機会がとても多いところでした。また、どちらもフリートークをたくさんできる場所でした。Meals on Wheels ではスタッフがアメリカ人だけではなかったので、様々な文化の違いが感じられました。ボランティアを通して現地の方々と仲良くなることができ、たくさんの人とコミュニケーションができるので、現地の文化を感じられるし、Listening Speaking 力の向上に繋がりました。本当に貴重な経験ができたと思っています。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

PIA ではたくさんアクティビティがありました。お金が必要なもの、人数制限があるものもありましたが、車がないと行けないような場所にも行くことができました。私はサービスラーニング以外で、現地の高校の日本語クラスにボランティアスタッフとして参加する機会を得ました。私が参加したクラスは一番上のクラスで、流暢に日本語を話せる生徒もいました。日本の何に興味を持っているのか、などたくさん知れてとても楽しかったし、本当に良い機会でした。また、私は Conversation program という週に 1 回 1 時間現地の人と英会話するプログラムに申込みしました。なかなかパートナーが見つからず 1 月から始まりましたが、私のパートナーが本当に良い人たちで、会話だけでなくメール交換したり、最後には一日お出かけに連れて行ってくれたり、とても素敵な人たちに会えて本当に良かったです。

⑥ 現地での住まいについて

私のホームステイ先は PIA から近かったので、歩いて通学していました。サービスラーニングのボランティア先は遠かったので、約 2 時間かけてバスで行っていました。私のホス

トファミリーは何度も留学生を受け入れている家族でした。家族は父、母、息子 3 人いて、そのうちの 1 人はまだ赤ちゃんでした。おばあちゃんも隣に暮らしていて、家の向かいにはホストマザーの妹の家族が住んでいて、休日はとても賑やかでした。家族みんなとても優しく、ご飯はみんな揃って食べることがほとんどでした。部屋も一つ用意して貰えました。洗濯機など何でも好きに使っていいというかんじのルールだったので、不自由なく過ごすことができとても良い環境でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

私はホストファミリーや友達と過ごすことが多かったです。ホストファミリーの親戚の家に行ってパーティに参加したりしました。また長期休暇の時にホストの赤ちゃんの 1 歳の誕生日パーティが開かれて親戚中が家に集まって盛大のパーティをしました。友達と買い物に行ったり、お洒落な街に行ったり、一人でカフェめぐりなどとても楽しかったです。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことはたくさんありました。ハロウィーンパーティ、Thanksgiving アメリカのクリスマス、PIA のアクティビティ、など本当に楽しかった思い出でいっぱいです。ホストファミリーと過ごした時間も大切な思い出です。何よりもたくさんの人と出会えたことが私にとってとても大切な思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

現地に着いてから、生活にまだ慣れていなかった期間は本当に辛かったです。体調も悪かったので大変でした。あとは、自分の英語力の未熟さを感じることも多々ありました。特にボランティア先では、子供の英語の話すスピードに慣れなくて聞き取れないことがあり大変でした。しかし、この留学でもっと英語力を高めよう、頑張ろうという気持ちにできたので結果的には良かったと思っています。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは絶対いります。課題でよく使いました。学校の図書館にもありますが、家で課題できないのは厳しいと思いますし、Monthly report の提出もありますので必須だと思います。私が個人的に持って行って役だったのは、洗濯バサミと洗濯ネットです。服が傷んだり縮んだりするのでネットを、下着等は自分の部屋で干すために洗濯バサミを使いました。雨がよく降るので毎日折りたたみ傘も必須でした。服や靴、日用品は現地で買えるの

で、こだわりがなければ持っていかなくても大丈夫ですが薬はたくさん持っていきました。
入らなかった分や余分に欲しいものは親に一度仕送りをしてもらいました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

PIA での授業のおかげで Reading Writing についてたくさん学ぶことができましたし、私が最も向上させたかった Listening Speaking 力は留学前よりも良くなったと思います。TOEIC のスコアも留学前よりも上がっていたし、同女のネイティブの先生の授業も聞き取れるし理解できるようになったと思います。勉強面だけでなく、たくさんの人と出会ったおかげで物事の考え方も変わったと思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

辛いこともたくさんありますが、それ以上に楽しいこともたくさんあります。留学の醍醐味は出会いだと思います。国が違う人、価値観が違う人、たくさんの人と出会える素晴らしい機会だと思います。その出会いがあって、私の物事に対する考え方、視野が広がったと思います。留学は英語力の向上だけでなく、新しい文化や慣習、日本との違い、また日本の良さを知ることができます。そして、あっという間に時間は過ぎるので一日一日を大切にしてほしいと思います。全てが貴重な経験になるので、精一杯楽しんでほしいと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

英語を使った仕事に就くことです。そのためには留学で身につけた英語力を低下しないよう、さらにのばすようにこれからも頑張っていきたいです。



Conversation partner の家族とお出かけした時の写真！
本当に素敵な家族でとても楽しい一日でした。



ホストマザーとカヌーした時の写真！
マザーとより仲良くなれるきっかけで、とっても楽しかった！！